

論文が成果として出された。

レジリエンスを導く精神的回復力
—尺度構成と信頼性, 妥当性の検討—
日本心理学会第65回大会発表論文集 p. 940. 2001.
11. (小塩真司・金子一史・長峰伸治と共著)

ネガティブな出来事からの立ち直りを導く心理的特
性
—精神的回復力尺度の作成— カウンセリング研究
印刷中 (小塩真司, 金子一史, 長峰伸治と共著)

(2) 青年期の余暇活動と動機づけに関する研究

青年のレジャー活動と動機づけに関する共同研究を数
名の大学院生とともに進めている。本年度はその成果を
2つの学会において発表した。日本教育心理学会では、
青年期版レジャー活動尺度の作成を行い、日本心理学会
では大学生におけるレジャー活動のタイプと意欲低下、
アイデンティティ等の関連変数との関係を検討した。こ
れらの研究を基に、これまでの動機づけ研究では注目さ
れていない、本業(学業)以外の活動が動機づけにどの
ような影響を及ぼすかという問題について焦点を当てて
いきたいと考えている。

レジャー活動と動機づけ (1)
—青年期版レジャー活動尺度の構成—
日本教育心理学会第43回総会発表論文集 p. 113.
2001. 9. (安藤史高・西口利文・小塩真司・伊田勝
憲・伊藤敏雄・原田一郎と共著)

レジャー活動と動機づけ (2)
—レジャー活動と自己意識・意欲低下との関連—
日本心理学会第65回総会発表論文集 p. 550. 2001.
11. (安藤史高・西口利文・伊田勝憲・伊藤敏雄・
原田一郎と共著)

(3) その他

愛知県立刈谷高等学校教諭の土本恵美(平成11年度本
学部卒業生)とともに、日本教育心理学会において、い
じめに関する研究発表を行った。卒業論文をまとめ直す
ための指導、助言をすることで、卒業生のその後の成長
に接する機会となり、大学教育に関わるもののやりがい
を感じる思いだった。

いじめ被害者に対するサポートの有効性
—教師及び友人によるサポートの有効性認知に関す
る発達的变化—
日本教育心理学会第43回総会発表論文集 p. 565.
2001. 9. (土本恵美と共著)

また、2001年4月より、愛知県犬山市教育委員会学校
教育客員指導主幹の杉江修治中京大学教授の指導に同行
し、犬山市の小中学校における少人数授業やチーム・
ティーチング授業の観察を継続的に行なっている。授業
観察だけでなく、教員懇談会等への参加なども通じて、
教育実践を知る貴重な機会となった。今年の観察を踏ま
え、来年度以降、教室現場における参与観察的方法など
による実践研究を進めることを計画している。教育心理
学的研究としての知見とともに、教育実践にも少しでも
寄与できる計画を立案することが課題である。

研究経過報告

増田尚史

2001年4月より助手として心理発達科学専攻に加えさ
せていただきました。現在、おもに単語の認知過程に関
する研究を行なっております。以下に、2001年のこれま
での研究状況をご報告します。

1. 査読付き論文

増田尚史・齋藤洋典(2001). 仮名表記語の認知におけ
る文字錯合: 数字列との比較 基礎心理学研究,
19, 93-99.

Masuda, H., & Saito, H. (2001). Interactive proc-
essing of phonological information in reading
Japanese Kanji character words and their
phonemic radicals. *Brain and Language* (in
press).

Saito, H., Yamazaki, O., & Masuda, H. (2001).
The effect of number of kanji radical compan-
ions in character activation with a multi-
radical-display task. *Brain and Language* (in

press).

2. 国際会議

Masuda, H., & Saito, H. (2001, June). Whole word versus subword activation in reading Japanese Kanji character words: Evidence from good and poor readers. *Poster presented at the 2nd Conference of Society for the Scientific Study of Reading*, Boulder, Co.

Saito, H., Masuda, H., & Kawakami, M. (2001, June). Phonological and semantic activation of subwords in recognition of Japanese Kanji characters. *Poster presented at the 2nd Conference of Society for the Scientific Study of Reading*, Boulder, Co.

3. 国内学会

増田尚史 (2001). 漢字判断課題における語と構成部品の頻度効果 日本認知科学会第18回大会発表論文集, 300-301.

増田尚史 (2001). 漢字認知における頻度効果: 語彙知識の多寡による検討 日本基礎心理学会第20回大会.

藤田知加子・増田尚史 (2001). 仮名单語の表記の親近性が文字同定課題に及ぼす影響 日本基礎心理学会第20回大会.

増田尚史 (2001). メンタル・レキシコン研究(V): 漢字構成部品のタイプ頻度が漢字らしさ評定に及ぼす影響 日本心理学会第65回大会発表論文集, 209.

白石知子・齋藤洋典・増田尚史 (2001). 説明と理解における行為と発話に関する研究(II) 日本心理学会第65回大会発表論文集, 305.

齋藤洋典・長坂美奈子・増田尚史・柳瀬吉伸 (2001). 自伝的記憶(XI): 過去想起事象, 現在想起事象, 未来想起事象に随伴する感情比率をつなぐ「現在」の二重性 日本心理学会第65回大会発表論文集, 320.

なお, 共同研究者の所属は以下の通りです(掲載順)。

齋藤洋典: 本学大学院人間情報学研究科・教授

山崎 治: 千葉工業大学情報科学部・助手

川上正浩: 大阪樟蔭女子大学人間科学部・講師

藤田知加子: 信州大学人文学部・助手

白石知子・長坂美奈子・柳瀬吉伸: 本学大学院人間情報学研究科・大学院生